

「近未来の課題解決を目指した実証的社会科学推進事業」中間評価結果表

研究領域	研究領域2 生活の豊かさを生む新しい雇用システムの設計
研究課題名	すべての人々が生涯を通じて成長可能となるための雇用システム構築
責任機関	東京大学
研究代表者	玄田 有史

評価結果

- A . 現行のまま推進すればよい
 A- . 研究計画の一部見直し等努力の余地がある
 B . 研究計画の大幅な見直し等一層の努力が必要である
 C . 研究費の減額又は研究の終了が適当である

評価にあたっての意見

研究テーマの重要性、緊急性は高く評価でき、現時点において研究成果を踏まえた実践的な政策提言がされている点や、実務家や行政担当者を含めたワークショップが数多く実施されていることも評価できる。

しかしながら、広がりをもって研究が進んではいるものの、拡大・拡散しすぎてはいないかが懸念される。提案されているテーマに対して際限なき拡大ではなく、限られた資源と期間のなかで研究が集約していくよう、最終的なキャリアビジョンの策定に向けて具体的な準備を進める必要がある。

さらに、より具体的な提案として、学校現場との対話や、雇用システムのなかでも特に企業・組織の研究をスピードアップすることについても検討されたい。

研究自体は概ね研究計画通りに実施されていると見られるが、研究を実施することが目的化することのないよう、シンポジウムにおける満足度、ホームページのアクセス数、提供データの利用状況など、提供された情報が活かされているかの検証が必要である。

なお、国費が投入されていることを踏まえて、適切なコスト管理を実施して、調査研究を効率的に行っていただきたい。